Rwanda Stories

氏名：田橋知直　　学校名：追手門学院中高等学校
担当教科：英語　　実践教科：英語
時間数：20コマ　　対象学年：高校1年生　　人数：24 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：		
ルワンダのジェノサイドの歴史を通して、平和について考える。歴史を知るのみならず、このような惨事が起こった背景と、そこからの国の復興に大きな役割を果たした「赦し」に関して考察する。 授業実践に際して、様々な意見交換の場を設定し、様々な意見に触れる中で個性や多様性を認め、協調しながらも自分軸をしっかりもつ訓練の場とする。		
【2】 単元の評価 規準例	（ア）関心・意欲・態度	教材の内容を自分事にできる。他者との協働を通して自分の考えを進化させる。
	（イ）思考・判断・表現	比較・選択し判断する。
	（ウ）技能	考えたことを英語を使って表現できる。
	（エ）知識・理解	英文を正しく読解できる。新聞に出てくる語彙を広げる。
【3】 単元設定の理由 ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容	日ごろから「Critical Thinking」の大切さについては、英語のみならず各教科の授業やHR の時間に生徒たちは教員から伝えられるが、今一つ実感をもってそのことに向き合う機会が少ない。今回のルワンダの歴史、現状を題材として、「Critical」な視点がないと国がどのような方向に向いていくかを考える機会としたい。そういった意味で、歴史的にも、一見平和に見えるルワンダの現在においても抱えている「複眼思考」を学ぶのに最適な国である。願わくばそこから転じて、日本がたどってきた歴史にも目を向け、戦時中のようなイデオロギーがはびこらないよう、社会の変化を自分事として考えるきっかけにもしたい。 対象クラスの生徒はいわゆる「特進コース」の生徒である。素直な生徒たちであり、学校に対する帰属意識は高く、英語を含む学習に対するモチベーションも高い。一方で、いわゆる「受験勉強」も気になる生徒たちである。PBL 型の学びが将来に生きるのはわかる一方、従来型の日々成長が実感できる型の教育を求めているところもある生徒層である。 教材のポイントとしては、ジェノサイド自体よりも、そこに至った「憎しみの構築」の段階と、このような惨事を乗り越えた Gacaca 裁判をめぐる過程、さらにはそうは言っても実態として残っている現代のルワンダが抱える課題の部分にスポットライトを当てたい。	

	アフリカという、遠いところにあり、おそらく一生のうちでも訪れることのなさそうなルワンダという国で起こったことにショックを受けるところから始まり、その背景を理解することで理解を深めると共に、「平和」とは何かを考えられるようになり、その過程を通して Critical Thinking の重要さに気づくことを目標とする。その際、日本の戦時中の状況についてもあわせて考えることで、いかにアフリカという「物理的に遠いところ」、「全く文化的文脈の違う場所」で起こっていることを自分事に近づけることができるかが生徒の中に起こしたい変容の大きさを左右する。

【4】展開計画（全　20　時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	BBC News Reading 1992 年のジェノサイドについて、概要をつかむ。	BBC News の実際の記事を読む。語彙レベルも含め、かなりハードではあるが、グループ内で協力しながら読み解いていく。	BBC News 記事
2	BBC News Reading 1992 年のジェノサイドについて、概要をつかむ。	引き続き、News 記事を読む。	
3	BBC News Reading & Making Question 1992 年の Genocide についての記事から、疑問に思うことをまとめる。	引き続き、News 記事を読む。内容理解の確認のため、英問英答型のタスクに取り組む。 また、今後の教材をより自分に引きつけて考え、検証できるよう、自ら問いをたてる。	
4	Introduction to Rwanda 映像で読んだ記事内容を振り返ることで、より教材に関心を向ける。	BBC の記事内容の確認、さらにはより詳細な情報を得るために、映像教材を視聴する。その後、グループで内容について、添付資料①の Question を材料にディスカッションをする。課題として、ディスカッションを経て考えたことを英語でまとめる。	映像教材 a)
5	The Construction of Hatred どのようにルワンダ市民が「憎しみ」を募らせていったのかを考える。	映像教材を視聴する。その後、グループで内容について、添付資料②の Question を材料にディスカッションをする。今回は、次の展開のためにあえて英語での出力課題を課さない。	映像教材 b)
6	The Construction of Hatred どのようにルワンダ市民が「憎しみ」を募らせていったのかを知る。	ここまでの映像教材やディスカッションから見える、「憎しみの構築」の 10 の段階をまとめたものを提示する。２グループに分かれ、１グループは A～E を、２グループは F～J を読み解く。次回、ジグソー活動をすることを伝える。	添付資料 1
7	The Construction of Hatred どのようにルワンダ市民が「憎しみ」を募らせていったのかを知り、また自分自身の「憎しみの構築」のプロセスと比較する。	課題として読み取ってきたものを、別の課題を与えられたグループとペアになり、伝え合う。さらに、その中でどれが一番インパクトがあるかを改めて考え、その考えをグループ内で共有する。内容が浅くなるのを避けるため、議論は日本語でし、writing assignment として、議論を経て考えたことを英語でまとめ、出力する。	

8	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	映像教材 c) 映像教材 d) Original Textbook
9	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
10	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
11	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
12	A Genocide Story 実際にジェノサイドがどのように行われたのかを、被害者の証言映像を交えながら学ぶ。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて英問英答に取り組み、理解の確認をする。 また、writing assignment を課す	
13	How to Begin Building a Future 本単元の主題となる、「和解」のステージに入る前に、「謝罪・補償」と「赦し」について考える。	「謝罪・補償」と「赦し」に関する 8 つの設定された状況に対し、自分自身の立ち位置を考えるまず個人で考え、その後各質問に対しての答えをグループで話し合う。 議論を深いものにするために、日本語での議論を認める。課題として、英語で自分の考えを述べられるように準備をして次時に臨む。	
14 本時	日本語を理解しない人たちに対して、ここまで学んできたことに対しての自分の意見をどこまで伝えられるかを計る。	オーストラリア人インターン生を交え、議論する。議論を経て考えた内容を Short Speech として出力する。Short speech 中はシートにメモを取り、スピーチ後はリフレクションシートに記入し、自分の考えの変容を振り返る。	添付資料２
15	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Reconciliation、Gacaca 裁判の概要を知るために映像教材を視聴する。 Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す	映像教材 g) 映像教材 e) 映像教材 f) Original Textbook
16	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す	
17	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す	

18	Reconciliation 和解のプロセスを知る。Gacaca 裁判が果たした役割と、世界の justice system とを比較する。	Textbook を読み進める。言語面・内容面においてかなりハードルの高い教材であるので、パートごとにわけて理解の確認をする。また、writing assignment を課す 次回のムトボ武装解除・社会復帰センターの紹介に先駆けて映像教材を視聴する。	映像教材 h)
19	Reconciliation 和解のプロセスを知る。授業者が現地で触れたものを､｢授業者のリアル｣として伝える。	現地で見た、ムトボ武装解除・社会復帰センターでの交流を、画像を見せながら紹介する。彼らのコメントを紹介し、それについての意見を募る。最後は、彼らの言う「愛国心」について考え、Critical Thinking の大切さにつなげる。	現地で撮影した動画 写真
20	まとめ	プロジェクトを通して学んだことを、日本語でスピーチする。後日英文エッセイの形で提出させ、performance 点に加味する。	

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 5分	・グループに分かれる。 （メンバーは指定済み） ・本日の活動の確認 ① 課題（BBC News 記事）をもとに､ディスカッション ②ディスカッションで学んだことをプレゼンテーション		
展開 20分	グループディスカッション	各グループに 1 名、Griffith 大学のインターン生をつけ、ディスカッションをする。	
20分	グループプレゼンテーション	各グループより、全員が発言をする。持ち時間は一人 30 秒～1 分。プレゼンテーションを聞いている間は、メモを取る。	プレゼンテーションメモシート
まとめ 5分	リフレクション	1 番のみに取り組む。残りは次時までの課題とする。 変容の度合いが見えやすいよう、日本語での記入を認める。	リフレクションシート （添付資料２）

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）

写真①本時の活動・タイムフレームの確認

写真②グループ・ディスカッションの様子

写真③グループ・ディスカッションの様子２

写真④グループ内の様子１

写真⑤グループ内の様子②

写真⑥グループ・プレゼンテーションの様子

写真⑦リフレクションの様子１

写真⑧リフレクションの様子２

【6】本時の振返り

こちらが想定していたよりも、レベルの高い議論ができた。インターン生にも予習をして臨んでもらったが、彼らにとっても本校生徒から学ぶところが多かったようである。各グループより、与えられた問いに対して賛成・反対、さらにはそれを踏まえて思うところをスピーチできた。ただし、インターン生とのやり取りを、最後のスピーチに大きく反映させることができなかった。結局、用意してきたものがメインの発表になってしまい、「やりとり」から即興でスピーチをするレベルの英語力はまだ持ち合わせていないことが見えた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

当初は、「あり得ない」、「同じ人間とは思えない」という反応であったが、「憎しみの構築」の 10 ステージの内容を自分の身の回りに置き換えてみた時、戦時中の日本や、現在各地で起こっている「いじめ」の問題などと、通じるものがあることに気がついた。また、国連軍も含めた世界中が結果的にルワンダを見捨てることになったことなど、日本で報道されない情報を得るために重要な「英語を使ってのみアクセスできる情報」に対する感度が高まり、英語学習へのモチベーションが上がった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

当初は「受験英語」との乖離から、長期間にわたり取り組むことに不安を感じる生徒も多くいたが、これまで考えたこともないような内容をグループで読み取り、意見交換し、それによって自分の考えが進化していく過程を体験できた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

（授業前）

遠い存在。環境も含めた「前提」が全く違うので、日本に住む自分たちにはあまり関係のない話。

（授業後）

一見「あり得ないようなこと」が、実は自分たちのこれまでの人生の中でもよく考えてみると「いじめ」などの形で身近な問題として顕在化していること、また戦時中の日本のイデオロギーにも通ずるところがあり、ルワンダと日本を結びつけて考えることができた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	Rwanda ジェノサイドにまつわる「赦し」を通して、①広い意味での平和の在り方や構築の仕方を考えること　②そのために、外部情報にもアクセスしてクリティカルな視点でとらえること　③多様性の感度を高めるためには、その多様性が生まれるに至った背景に注目すること　を大きなテーマとして取り組んだ。が、当然その部分だけ切り取って提示するわけにも行かず、予備知識も含めてインプットすることから始めると壮大な計画となってしまった。さらに、それを英語で扱うことによって、格段にハードルがあがってしまった。
2. 改善点	予備知識の部分は日本語で、例えば社会の授業で扱い、その予備知識をベースに、欧米では、アフリカでは、ルワンダ国内ではどのように受け止められているかの情報を英語で手に入れるといったように、教科横断で取り組むべきであった。
3. 成果が出た点	・英語新聞記事でも、語彙を強化すれば十分に読めるということ ・日本には入ってこない情報が世界にはたくさんあるということ ・であるので、Critical Thinking は大切だということ ・以上のことが改めてわかる教材を作ることができた。
4. 備考（授業者による自由記述）	2 学期中間考査後、ひと月半をかけて取り組んできたが、当初の計画通りに進まず大幅に時間を延長して取り組むこととなってしまった。本来はここから先がクライマックスを迎えるところとなる。実践報告会など、また別の機会を見つけて、核心となるところの生徒の成長を伝えていきたいと思う。また、本教材は対象としては高校３年生あたりの教材として、倫理の授業なども巻き込んでの実践に向いているように思う。

添付資料：１　「憎しみの構築」の 10 の段階
　　２　Reflection Sheet　(2 種)

参考資料：

映像教材ウェブサイト

a) http://www.rwandanstories.org/origins/real_differences.html
b) http://www.rwandanstories.org/origins/hutu_and_tutsi.html
c) http://www.rwandanstories.org/ジェノサイド/marshes.html
d) http://www.rwandanstories.org/ジェノサイド/ntarama_church.html
e) http://www.rwandanstories.org/recovery/overloaded_system.html
f) http://www.rwandanstories.org/recovery/is_it_soft_justice.html
g) http://www.rwandanstories.org/recovery/confronting_the_past.html
h) http://www.rwandanstories.org/recovery/is_it_soft_justice.html
i) http://www.rwandanstories.org/recovery/building_peace.html

https://www.youtube.com/watch?v=6jKfZDb6D5s
Why I forgave the man who killed my children ―BBC Africa―

参考図書：

隣人が殺人者に変わる時　被害者編　　著：ジャン・ハッツフェルド　　かもがわ出版
隣人が殺人者に変わる時　加害者編　　著：ジャン・ハッツフェルド　　かもがわ出版
隣人が殺人者に変わる時　和解への道　　著：ジャン・ハッツフェルド　　かもがわ出版
ゆるしへの道　　著：イマキュレー・イリバギザ　女子パウロ会
History and Citizenship For Rwandan Schools　East African Educational Publishers Ltd.
History and Citizenship For Rwandan Schools　LONGHORN PUBLISHERS LIMITED
Christian Religion and Ethics For Rwandan Schools　LONGHORN PUBLISHERS LIMITED
Integrating Concepts of Peace & Values Education into Rwanda Classrooms Model Lesson Plans
Rwanda Education Board

When the situation goes beyond words and emotions, to actual violence

"What happens when a dash of violence is added to an already potent mix of fear, anger and suspicion?

Everything becomes more complicated. Every emotion is multiplied.

Fear increases: victims are afraid of further attacks while the perpetrators are often afraid of revenge."

When leaders are constantly telling us that one particular group is the reason for our problems

"In power, Habyarimana was relentless in the task of discrimination and scapegoating. The peasants were encouraged to blame the Tutsis for their problems."

When we lock-in our feelings and they become permanent 'positions'

"Over time, both killers and victims write their own mental stories of what happened, and why it happened.

Violence locks in the prejudice. '*We don't like each other*' becomes' *we hate each other - we're enemies.*"

When adults are passing on hatred to children

"The most dangerous way of dividing a society is to train the children at an early age to hate. A Tutsi child was being trained to hate a Hutu child, and a Hutu child was being trained to hate a Tutsi child."

When leaders create fear of others to get themselves off the hook

"The extremists told them repeatedly that the Tutsis were coming to seize their land. In reality the thieving of resources was being done by Habyarimana and his cronies."

When we take part in the violence ourselves

"People look for reasons - our own violence needs an explanation.

Often if we can't find satisfactory reasons, we will invent some. The most acceptable reasons - to us - are the ones which blame others and let ourselves off the hook.

The things we have done would be less horrifying to us if our prejudices were in fact true, so we choose to believe them.

Our own violence confirms our prejudice."

When there is a complicated history of hatred that goes back for generations

"You will never see the source of a genocide. It is buried too deep in grudges, under an accumulation of misunderstandings that we were the last to inherit. We were taught to obey absolutely, raised in hatred, stuffed with slogans..."

When different groups are not treated equally

"The introduction in 1933 of a mandatory identity card system deepened social divisions.

Every Rwandan citizen was obliged to carry the card. which stated his name and ethnic identity, i.e. Tutsi, Hutu or Twa."

When leaders are telling us there is no room for one group, and that they are keeping us poor

"The populist Hutu administration depicted all Tutsis as scheming, treacherous speculators and parasites in an overpopulated country."

When intelligent and popular people keep giving a minority group a very hard time

"In the years before the genocide, there was a stream of hostile anti-Tutsi propaganda from politicians, university professors and media personalities."

添付資料２

Reflection sheet 1

【in class】

１．How was the presentations?

Write about the most impressive moment, phrase, group, etc.

【assignment】

A. About your group

１．How was the discussion?

２．How did you contribute to the discussion?

３．Who else in your group contributed to the discussion? How?

４．What did you learn from your guest teacher?

B. About other groups

１．Which group did you like the best? Why?

２．What have you learned from other group's presentations?

Reflection sheet 2

【in class】

１．How was the presentations?

Write about the most impressive moment, phrase, group, etc.

【assignment】

A. About your group

１．How was the discussion?

２．How did you contribute to the discussion?

３．Who else in your group contributed to the discussion? How?

４．What did you learn from your students?

B. About other groups

１．Which group did you like the best? Why?

２．What have you learned from other group's presentations?